

(5) 就学前に一千字は楽々

漢字カードを三年間一日一枚

前に、青少年不良化の最大原因は、学業の不振であり、その原因は漢字力が弱くて教科書が理解できないことにありと述べ、それを救う力は、残念ながら今の学校にないことを述べました。

その理由は二つあります。その第一は、国語教育の軽視です。どの国でも、三年生くらいまでは全学習時間の半分以上を国語科に当てています。例えば、東ドイツでは、二年生の学習時間の総数が19時間で、そのうち12時間が国語。三年生では総数が24時間で、14時間が国語です。わが国の国語の時間はこれらの半分にも達しません。こんなことで、十分な読書能力を養うことが出来るはずがありません。

第二は、漢字学習能力の最も高い時期にこれを学習させないでいて、能力が衰えてから学習させていることです。これでは、第一の学習時間の少ないことと相まって、いよいよ漢字学習がうまくいかないわけです。

そこで私はこれを救うために、「三歳から小学校に入学するまでの三年間、毎日わずかに三分間、母親が漢字カードを子供に見せ、これを読んでやるだけで、三年間に一千字の漢字を覚え、だれでも、この学校へ入っても、ずば抜けた秀才で通すことが出来るようになる」という方法を考え出しました。

これを実践した人はまだ少数ですが、実践した人は例外なく、ずば抜けた秀才になっています。なぜ、そんなに効果があるのかは、あと

で述べることにして、明日からでもさっそく実践できるよう、まず具体的な指導法から先に述べましょう。

(3)で述べたような漢字カードを作ります。これを毎日、一日一枚のペースで学習し、三年間に約一千字の漢字を覚える、というものです。

さて、このカードを、毎食事の前後に見せ、読んでやります。例えば、“耳”だとすると、「これは“みみ”という字よ。みみ。みみ」というように、二、三回くり返して読んで聞かせます。この時子供に真似て言わせてみるのはとても良いことです。この学習に要する時間は約10秒間くらい。

食事の前後にやりますから、合せて20秒。それが一日三回ですから、総計約60秒。これが第一日の学習のすべてです。

第二日は、まず“耳”のカードを見せて、「これ何という字？」と尋ねます。「みみ」と読んだら「えらい」と言ってほめ、次に第一日の要領で、“口”の学習に進みます。「これ何という字？」という質問は一日に6回、これを7日間続けます。これが大切です。

さて、質問のカードが毎日一枚ずつふえていきますから、第一日の1分がやがて3分くらいまでにふえていきますが、7枚が最高でそれ以上はふえませんが、毎日、新しいカードがふえますが、同時に一枚へりますから。試みに、一か月間で学習するにふさわしい漢字を30字あげてみましょう。

耳、口、目、鼻、頭、手、足、顔、首、腕、歯、舌、指、胸、腹、猫、犬、象、馬、猿、莓、机、栗、柿、梨、山、川、海、空、雨。